

読書案内

冬号

1～3年生向

2014.12.5

メディアセンター発行

RWANDA
「生かされて」イマキレー・イリバギサ 原題
「ステュー・アーウィン "Left to tell"」
ルワンダ大虐殺の生存者であるイマキレーさんの
その助かるまでの道のりは、杜絶で、読みにく
気が遠くなる、胸が苦くなるものでした。
狭いトイレに7人の女と身を隠し、話すことも
許されず、絶望の中にいとも神様の
神に通じ話し続ける。そして将来に夢を抱き、
ひとひ語をトイレで学び始めるのであ
大虐殺者への憎しみに満ちるかわりに神様の愛に
満ちる前に歩んでいく彼女の「語り」に
という原題がまことに表している。必読書！
N. H.

(PHP文庫)「生かされて。LEFT TO TELL」
Discovering God Amidst the Rwandan Holocaust
イマキレー・イリバギサ / ステュー・アーウィン
11月14日(金)、FH23-6年生は平和教育700プログラムとして「ルワンダ大虐殺
から20年-和解と共生 その困難と希望」と題した佐木和久氏
(国際ミッションボランティア)のお話しをうかがいました。私は、事前学習
として映画「ホテルルワンダ」、「ルワンダの涙」を見、そしてこの本を音読みま
して驚きました。1994年、ルワンダで、およそ100日間
で80万人から100万人を殺した大虐殺がありました。著者である
イマキレー・イリバギサさんは当時大学生で3ヶ月の間、ホテルに身を隠した女性
として、この大虐殺の体験を語り、そして
N. H.

93A3/To73/1~3
『ヒツヒツのクリスマス』 (いちのこぼろネ) 続
クリスマスが近づくこの季節(アドヴェント)に
もとどしにと読みたくなる本です。
アメリカの月刊誌「カイトポスト」で紹介された
実話に基づく、心温まるエピソードが集められた
もの。最近「ハートフルクリスマス・ストーリー」も出た
第3弾
S. M.

『オーケストラ まるかじり』青島広志 中央公論新社
この著者、TVでの愉快なふるまいが思い浮かびますネ。
音楽は好きだけど、クラシックのことはよくわからない、
という人はオーケストラの裏舞台、へんかへんの事情が
わかる 楽しい一冊です。イラストと共につづらわけ
オーケストラエッセイ、のためカンターゼの続編の気分です
764.3/A M. Y.

ひとつひとつ。少(す)ず。鈴木明子
784.6/S
鈴木明子さんといえば、バンクーバー、ソチのオリンピックに出場する
等、スケート界のオーソニティで活躍し、引退した選手です。スケートは
美しく、華やかで見る者を魅了しますが、選手達の日々の努力は
並大抵ではないはず。鈴木さん自身、10代後半に体重が
32キロまで落ち、摂食障害を経験し、乗りこえという経験をもて
います。これらの経験を通して、鈴木さんの芯の強さを感心し、自分
が成るべきこと、過ちは引き出し、自分がかかっていた
T. M.

ボクの音楽武者修業
小沢征爾 著 新潮文庫 762.1/0
アバト、ボクワットなど偉大な指揮者が
あいついで亡くなる中、腰痛から復帰
して頑強、という小沢。若い頃海外の
コンクールに参加するうちにスケターを
使うなど無鉄砲ぶりが痛快。 T. S.

74革命 言葉の森を育てよう。 Poo S
ドリアン 助カリ 著
自分の気持ちや考えを表現するのに今ひとつ、びたりに
言葉が見つからず、もどかしい思いをした経験が誰に
あるといます。言葉の森が大きくなるとそれだけ
表現したり、理解できる世界が広がっていくのは
ワクワクすることです。毎日必ず使っている言葉について
発見がありますよ。 R. K.

カモメに飛ぶ"こと"を教えた猫
(著)ルイス・セパールベラ 請求記号 963-Se78
猫が環境汚染の犠牲者となったカモメの、最後の卵
をあたため、育て、愛し、そのカモメが飛び立つのを見届
ける。猫はカモメに、「ぼくたちはきみと、カモメと
愛しているんだよ」と言います。猫とカモメという異種
者同士の愛をこの本で感じて下さい。環境破壊とい
う問題、愛情について「挑戦」の向かいにある可憐な
ついで...この物語から感じ取れることは
さまざま、それは皆さんの読み次第です。毎
日の紙に押しあふれる日々の間違いなく私
が在る中に押しあふれる一語一語 S. K.

